

2012年4月13日
株式会社損害保険ジャパン

釜石市鶴住居町で人形劇を公演 「損保ジャパン笑顔届け隊！」が人形劇を通じてこころのケア

株式会社損害保険ジャパン（社長 櫻田謙悟、以下「損保ジャパン」）は、NPO愛知人形劇センターと連携して、3月20日（火・祝）に岩手県釜石市鶴住居（うのすまい）町にて人形劇公演会を実施し、児童や高齢者を中心に約80人にご来場いただきました。

当日は、『かぐやひめ』などの人形劇を公演したほか、全国の損保ジャパン社員ボランティアが作成した手作りプレゼントやメッセージカードをお渡ししました。

【公演日】 2012年3月20日（火・祝）

【場 所】 午前の部 「長内集会所」（岩手県釜石市鶴住居町）
午後の部 「社会福祉法人愛恵会 五葉寮デイサービスセンター」（同上）

【開催経緯】

損保ジャパンが岩手県釜石市の行政、NPOなどにヒアリングしたところ、特にニーズが高かったのが仮設住宅に居住する方々へのこころのケアでした。損保ジャパンは、愛知県名古屋市に人形劇専用劇場「ひまわりホール」を所有しており、劇場の運営団体であるNPO愛知人形劇センターとともに人形劇を通じた地域貢献活動に取り組んでいます。阪神大震災後にも被災地で人形劇が喜ばれた経緯もあり、今回、釜石市の仮設住宅に居住する方々を対象に、人形劇を公演することになりました。

【活動内容】

損保ジャパンでは、被災地の方々に人形劇を通じて笑顔を取り戻してもらいたいとの思いから、社員を中心とした「損保ジャパン笑顔届け隊！」を結成し、NPO愛知人形劇センターならびにひまわりホールで活動する人形劇団「ゆめみトランク」^(※)と連携のもと、釜石市鶴住居町で人形劇を企画して、約80人の方にプロの人形劇を楽しんでもらいました。

また、公演にあわせて全国の損保ジャパン社員ボランティアが作成した手作りプレゼントやメッセージカードもお渡ししました。



手作りプレゼント



メッセージカード



午前の部は、釜石市の鶴住居地区生活応援センターが主催する幼児と保護者を対象としたイベントのなかで公演し、約30人の児童と保護者など合計約60人にご参加いただきました。

また、午後の部は、鶴住居町の高齢者施設で公演し、約15人にご参加いただきました。

人形劇をご覧いただいた方からは「震災以来、初めて孫の笑顔を見ることができた」「プロの人形劇を初めて観て感動した」などの感想をいただきました。愛と笑いのある人形劇に会場もなごみ、癒しの機会となったようです。

今後も、損保ジャパンでは、被災地のニーズにあった、継続的な支援を実施していきます。

(※)「ゆめみトランク」について

「ゆめみトランク」は、ゆみだてさとこ氏と桑原博之氏が2008年に立ち上げた人形劇ユニットで、損保ジャパン名古屋ビルにある「損保ジャパンひまわりホール」を拠点に全国の幼稚園、保育園、小学校、ホール、フェスティバルなどで活動しています。

今回上演したのは、プラハを拠点に活躍する国際的な人形劇作家である沢則行氏が演出した『かぐやひめ』と、画家の平松絵美氏とゆめみトランクが共同製作した『やぎのおはなし』で、色とりどりのセットと個性的な人形で、愛と笑いのある物語を展開しました。

以上